

泌乳牛用飼料イネ発酵 TMR における 麦焼酎粕濃縮液の適正混合割合

飼料イネは、現在、栽培面積が拡大しつつありますが、泌乳牛用飼料として利用するには粗タンパク質含量が少ない特徴があります。一方、九州地域で産出される麦焼酎粕濃縮液には粗タンパク質が比較的多く含まれており、飼料イネを用いた泌乳牛用発酵 TMR の原料に利用できれば、タンパク質飼料として活用できます。しかし、飼料イネと麦焼酎粕濃縮液を混合した発酵 TMR の調製・給与に関する報告はほとんどありません。そこで、麦焼酎粕濃縮液の混合割合が乳生産や乳質に及ぼす影響を検討し、乳量や乳成分率、生乳の風味等に影響を及ぼさない適正混合割合が乾物中 10%程度であることを明らかにしました。

☆ 技術の概要

1. 泌乳後期牛に麦焼酎粕濃縮液を乾物中 10%混合した飼料イネ発酵 TMR を給与すると、粗タンパク質の消化率は 7 ポイント程度低下したが、乾物摂取量、乳量および乳成分率に影響はありません。
2. 麦焼酎粕濃縮液の混合割合が乾物中 20%の飼料イネ発酵 TMR を給与した場合、粗タンパク質の消化率は 21 ポイント程度低下し、乳成分率に影響はみられないものの、乾物摂取量と乳量は低下する傾向を示しました。
3. 麦焼酎粕濃縮液の混合割合が乾物中 20%の飼料イネ発酵 TMR を給与した場合、生乳の官能検査において、わずかに発酵臭の発生が認められました。



写真右から 飼料稲栽培風景、麦焼酎粕濃縮液、TMR 混合・調製、給与状況

☆ 活用面での留意点

麦焼酎粕濃縮液はクエン酸等により雑菌の生息が困難なため、長期保存が可能で、年間を通して利用でき、飼料イネと麦焼酎粕濃縮液を用いた泌乳牛用発酵 TMR 調製と給与設計に活用できます。しかし、麦焼酎粕濃縮液は粗タンパク質の消化率が低いため、給与設計の際には留意する必要があります。詳細は、福岡県農総試・家畜部・乳牛チーム森永結子(TEL: 092-925-5232)にお問い合わせください。

(日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男)